

7. 千成小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成28年（2016年）12月5日（月）19時00分～

○場 所：千成小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>今後のスケジュールについて、私の子どもは小学4年生だが、中学1年生の時にはどこへ通うことになるのかなど、保護者としては、実際に自分の子どもがどこへ通うことになるのか分かる一覧表がほしい。</p>	<p>いただいたご意見を参考にし、より分かりやすい資料を作成したいと考えています。</p> <p>今回、再編スケジュール（案）をお示ししていますが、あくまでこのように進めていきたいという想定であり、皆さまにご意見をいただきながら検討を進めていく中で、変更になる場合もございますので、その点はご了承ください。</p> <p>お子さまが小学4年生ということですが、今のスケジュールでいけば、仮開校前に中学校を卒業する見込みです。</p> <p>今現在の検討状況から考えると、南校は、不確定要素が多く、その部分が固まれば速やかに進む可能性もありますが、遅れる可能性もあります。</p>
<p>現状でも、通学路は、朝、車やバイクが錯綜していて非常に危ない状況であるので、スクールゾーンを設置したり、時速制限を定めたいできないか。</p> <p>通学路では、外灯を付けていない家が多いので、とても暗い状況である。通学路の街灯の数を増やしたり、防犯カメラを設置したりして事故を起こさせないように対策をとってほしい。</p> <p>千成小学校から大黒町に不審者が現れたといった情報メールも来ているので心配である。</p> <p>通学路に人を配置することは、子どもたちの安全・安心に一番効き目があると思う。</p> <p>庄内にはお年寄りも多いので、安全安心なまちづくりという面でもぜひ対策をとってほしい。</p>	<p>通学路の安全確保は、最優先の課題だと認識しています。スクールゾーンについて、学校から半径500m以内の範囲で設定され、必要に応じて速度規制等を行い、子どもたちの登下校に気を付けるように定められています。例えば、スクールゾーンであることを強調するため、路面標示で示したり、地元の方の同意が必要ですが、時間帯通行規制をしたりすることが考えられます。千成小学校区では、時間帯通行規制されている箇所もすでにありますが、もっと増やすことができるのか、警察と連携しながら検討していきたいと考えています。</p> <p>街灯については、都市基盤部が全市的にLED化を進めているところです。街灯の数を増やすのは難しいと聞いていますが、あまりにも暗い箇所や古いタイプの街灯については、都市基盤部に改善を働きかけることはできます。</p> <p>防犯カメラについては、危機管理課が市内全小学校区の通学路を中心に平均30台を設置する事業を進めています。早ければ、年明けから設置される地域もあると聞いています。防犯協議会など、地域の皆さんが中心となって設置場所を検討しているところだと思います。</p> <p>通学路に人を配置することについては、例えば、普段から「子どもの安全見まもり隊」など地域の皆さまにご協力いただいておりますが、新たなポイントに立っていただくなど、子どもたちの安全を見守っていただきたいと考えておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。</p>

<p>教育委員会の考えばかりで進めている。構想案について、保護者が全員反対だと言ったらどうなるのか。</p>	<p>本日は、現時点での検討状況をご説明しています。本日はいただきましたご意見やご不安な気持ちをしっかりと受けとめ、今後も検討を進めていきたいと考えております。</p>
<p>小学校低学年がこの距離を歩けると思っているのか。大人の目線ではなく、子どもの目線で考えるべきである。</p>	<p>通学路に関しましても、現時点での検討状況をご説明したものです。引き続き、通学の安全確保の観点から検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p>小学校の教員免許しか持っていない教員はどうなるのか。</p>	<p>原則、小免のみの教員が、中学校の授業を受け持つことはできませんが、例えば、中学校教員とペアを組んで支援するなど、子どもたちの9年間の学びに関わることは可能と考えています。</p>
<p>総工費はどのくらいかかるのか。校舎を取り壊して、新しく建てたら莫大な費用がかかる。誰が負担するのか。南部地域だけでなく、北部地域など、全市民の税金を使用することになるのではないか。構想案を検討するのはいいが、まず予算のことを考えるべきである。</p>	<p>総工費は算出できていませんが、構想が固まり、小中一貫校を整備する際には、市議会にお諮りし、ご審議いただくこととなります。市議会のご承認が得られた場合、市税を投入することとなりますので、より良いものをつくっていきたくと考えています。</p>
<p>今までの説明会ではどのような意見が出ているのか。</p>	<p>これまでの説明会では、小中一貫校に関して、例えば、近隣の事例を挙げて、小学校と中学校の子どもたちがお互いに我慢したり、委縮したりするようなことにならないか、といったご心配の声、あるいは、メリットだけでなくデメリットも教えてほしい、といったご質問をいただきました。また、通学距離が伸びることや安全面に関するご心配の声も多くいただいています。その他にも庄内地域のまちづくりや学校跡地、地域コミュニティに関するご質問なども数多くいただいています。</p>
<p>今後のスケジュールについて、2月の説明会では、北校と南校を同時に開校させると言っていたが、2年ずれることとなった。 平成32年度(2020年度)の新中学2,3年生はそのまま第六中学校に通うということだが、第六中学校は北校の改修工事で使用できないのではないか。 三国に住んでいる児童も野田小学校に通うということだが、中学校は第七中学校に通うのか。</p>	<p>平成31年度(2019年度)末に庄内小学校、野田小学校、島田小学校を卒業した子どもたちは第十中学校の敷地の新たな中学校に、庄内南小学校、庄内西小学校、千成小学校を卒業した子どもたちは第七中学校へ通うこととなります。平成31年度(2019年度)の在校生で、平成32年度(2020年度)に新2,3年生になる生徒は、引き続き同じ中学校に通っていただきたいと考えていますが、第六中学校が新校舎の工事で使えなくなりますので、第十中学校の敷地に通っていただくこととなります。距離的には、千成小学校区から第十中学校まで最長で約2キロあります。中学校は3年間と短く、高校進学のことを考える必要があることから、1学年ずつ順番に移行の方が子どもたちにとって望ましいと考えています。通学距離が遠くなる子どもたちがいますが、進路指導の重要性を勘案し、今回の案を提案しています。</p>

<p>三国 2 丁目から第十中学校に通うとなると、とても遠いので、電車通学も想定してはどうか。中学生は、10 キロほどの重い荷物を背負って登下校するので、心身ともにかなり負担になると思う。スクールバスの導入は予定にないと言っていたが、仮開校時だけでもいいので、スクールバスもしくはコミュニティバスを導入してほしい。コミュニティバスは運営費がかかると思うので、難しいのであれば、朝と夕方の登下校だけでもスクールバスを出してほしい。</p> <p>学校にいくのが嫌だと言われるのは親として辛いので、学校にいきたいと思える通学方法を考えてほしい。</p>	<p>本日、いただきましたご意見は持ち帰り、さらに検討してまいります。</p>
<p>資料 P16 に施設一体型小中一貫校のメリットのデータが載っているが、これは全国のデータか。</p>	<p>資料 P16 のデータは文部科学省が作成した「小中一貫教育等についての実態調査の結果」より抜粋したものです。</p>
<p>全国で小中一貫校は何校くらいあるのか。</p>	<p>全国の小中一貫教育の取り組み状況について、全国には、小学校は約 2 万校、中学校は約 1 万校ありますが、その内、1,130 件、約 10% で小中一貫教育を行っています。歴史的には、平成 12 年に広島県呉市から始まったと言われています。施設一体型小中一貫校は約 140 校あります。</p>
<p>施設一体型小中一貫校になった場合、教職員の数が減るのではないかと。教職員の数が減ると、登校拒否になった児童など、きめ細かい対応ができるのか。今現在でも、小学校の教員はいろいろな生徒指導に取り組まれているのは分かっているが、今後、どのようになるのか。</p>	<p>今現在、各学級では、担任の教員以外に 2,3 人ほどの教員と一緒に子どもたちを教えています。加えて、大阪府からの加配として、子どもたちの生活指導全般を指導する教員が加配されている学校もあります。庄内地域については、さらに、市費で非常勤講師などを加配しています。</p> <p>教育委員会といたしましては、新しい学校を開校してからすぐに、子どもたちの姿が変わると思いません。教職員、保護者、地域の方が協力し合い、数年かけて「魅力ある学校」を創り上げていくものと考えています。通学の見守りにつきましても、地域の方とどのような取り組みができるのか相談させていただきながら検討を進めていきたいと考えています。既存の 3 小学校の教職員の合計数と、新しくできる小中一貫校の教職員数を比べますと、おおよそ 3 割減になる見込みです。減った教職員は、市内の別の小学校に異動します。また、中学校には中学校の教職員がいますので、小学校と中学校が一緒になれば、実質的に、学校の中にいる教職員数は増え、子どもたちを見守る目が増えることとなります。</p> <p>教員免許につきましては、小学校の教員免許しか持っていない教員は、従来どおり小学校でしか授業はできませんが、中学校の教員免許は、教科ごとの免許になりますので、例えば、数学の教員は、小学校の算数を教えることができます。</p>

	<p>小中一貫校になっても、例えば、小学 1 年生は小学 1 年生の教科書を使って勉強しますし、中学 3 年生は中学 3 年生の教科書を使って勉強します。行事などは異学年が交流しますが、基本的な学校生活は、学年ごとに行っていきたいと考えています。</p> <p>教員の“数”の話もありますが、小中一貫校では、小中の教職員が学習や授業内容の相談やアドバイスをお互いにできるという“質”の向上も期待できます。小中一貫校によって、今ある課題を全て解決することはできませんが、解消されることが多くあると思います。</p>
<p>庄内西小学校区から南校の敷地となる千成小学校までかなりの距離があるが、小学校 1 年生で、集団登校するにしても、PTAや地域の人の見守り活動が必要になると思う。そのあたりは、今後、どのように話し合いされるのか。</p> <p>最近、ニュースで通学時の事故が相次いでいるが、この校区においても、道幅の狭い通学路がたくさんあるので、安全対策をよく考えないと、事故が起こるかもしれない。</p>	<p>通学の安全確保は重要と考えており、ハード、ソフト両面から検討を進めていきたいと考えています。</p>
<p>先に出た質問と重なるが、北校の改修工事が始まる時には、中学校は 2 校になっているということでしょうか。また、小中一貫校になれば、小学校の卒業式はなくなるのか。修学旅行はどうなるのか。受験を控えている中学 3 年生には大きな負担となると思うが、そのあたりの配慮はあるか。</p>	<p>平成 31 年度（2019 年度）末に、第六中学校と第十中学校は一旦閉校し、平成 32 年度（2020 年度）に北校の中学部として、第十中学校の敷地に仮開校します。第七中学校は、引き続き運営しますので、北校の工事着手時点において、中学校の数は、おっしゃるとおり、2 校になります。</p> <p>2 月の説明会の際には、既存の小中学校を平成 31 年度（2019 年度）末のタイミングで全て閉校し、平成 33 年度（2021 年度）に南北同時に開校するとしていましたが、今回は、新たなご提案として、北校、南校の順に開校することを提案しています。</p> <p>卒業式については、仮に新しい学校が義務教育学校になれば、小学校 1～6 年生までが前期課程、中学校 1～3 年生までが後期課程となり、小学 6 年生終了時に、前期課程の修了証書を授与し、中学校 3 年生で卒業式を行うことになると考えられます。なお、京都市の施設一体型小中一貫校、東山開晴館では、現行の 6・3 制ではなく、4・3・2 製の指導区分を取り入れており、4 年生時には「志の式」、7 年生時には「夢の式」、9 年生時には「誇りの式」を行い、それぞれの成長段階に応じた行事を行っています。子どもたちの発達段階に応じて、どの段階でどのような行事を行うのか、今後検討していきたいと考えています。</p>

	<p>まだ構想段階ですので、計画が固まってから、新しい学校の校名や校章など、細かい事項を保護者や地域の皆さまと一緒に検討していきたいと考えています。</p> <p>修学旅行については、早ければ来年度から、教職員が中心となって、業者や行程などを検討していくことになると考えています。</p> <p>中学 3 年生への配慮としては、進路指導の教員を継続的に配置することや、スクールカウンセラーなど、必要に応じて人材を配置することなどが考えられます。子どもたちへの負担が最小限になるように努めたいと思います。</p>
<p>千成小学校の通学路は狭く、学校までのルートも限られている。</p> <p>工事中には大型車両の通行も予想されるので、安全面で不安である。</p>	<p>工事期間中の大型車両の往来も含めて、通学路の安全確保について検討する必要があると考えています。いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<p>前回の説明会にも参加したが、内容が変更されているので、なかなかついていけない。特に、今後のスケジュールについて、保護者から質問されても、答えられない状況である。先ほど意見が出たように、どの時点で、どの学校に通うのかが分かる資料を早急に作成してほしい。</p> <p>また、義務教育 9 年間に於いて、小学校と中学校がどのように連携して、どの時点で指導区分を設けるか等、さまざまな検討をしていかなければいけない。ただ単に年齢によって区切るのではなく、本当に豊かな交流ができるものであってほしいと思う。中学の下請けのような学習を小学校で行ってはいけないと思う。</p> <p>小学校の教員はきめ細やかな指導をしているという自負があるが、小中一貫校で、小中の教員がお互いに学び合う必要がある。</p> <p>放課後子どもクラブについては、小学 1～4 年生の児童が対象で、原則 5 時に下校しているが、冬場は 5 時でも真っ暗になるので、子どもたちの下校が心配である。地域に児童館などの立ち寄れる施設をつくったとしても、そこにたどり着くまでも心配である。</p>	<p>どの時点で、どこの学校に通うことになるのかが分かる資料を早急に作成し、各学校に配布させていただきたいと考えています。</p> <p>小学校と中学校の教職員の共通意識や交流のあり方などについては、これまでの各中学校区での小中連携の実績をもとに、小中の教職員がお互いに授業方法や指導方法などを参考にするなど、それぞれの良いところを学び合って、より良い教育環境をつくっていきたいと考えています。</p> <p>新しい学校は、千人を超える学校規模になることが見込まれますが、各学年は 3～4 学級の規模になる見込みで、ほぼ標準規模になります。</p> <p>きめ細かい指導については、今、教員の方がそれぞれ実践していることを大事にしながら、小中一貫校によって、多様な教育活動を行っていきたいと考えています。</p> <p>放課後子どもクラブ後の下校時の安全確保については、先日の市民説明会でもご意見としていただいています。</p> <p>放課後子どもクラブを所管することも未来部を含め、関係部局で構成する検討会議において、対応策を検討してまいりますので、具体的な方向性が決まりましたら、報告したいと考えています。</p>